

第 45 回 一宮市地域公共交通会議議事録

【開催日時】

2025 年 5 月 29 日（木） 9：30～12：00

【開催場所】

一宮市役所本庁舎 14 階 1401 会議室

【傍聴人】

3 人

【議事内容】

1. 開会

2. 議題

（1）市内バス路線等の利用実績について《報告事項》

- ・事務局より資料説明
- ・全国的に見ると同傾向であり、コロナ前の 85～90%程度である。名鉄バスも同様であり、昨年度を上回るものの、コロナ前まで戻らない状況である。オンライン授業や在宅なども残っており、これがスタンダードになっている。一宮市管内については、前年度比は他より低い状況である。路線別にみると、光明寺線などは利用が多くなってきている。一方、古知野線は非常に利用が少ない状況である。企業立地などの沿線状況の変化、イベント実施なども影響している。例えば、通勤・通学以外の英語検定の実施、オープンキャンパス実施などの外的要因は大きい。（名鉄バスより追加説明）

《意見・要望》

- ・コロナで大きく減少して、利用者が戻らない傾向がある。コロナ前まで利用していたが、交通手段が変わった、元気に外出できなくなったなど、全国的な傾向である。

- ・イオン線の対前年比は高く、すごい勢いで増加傾向となっている。
- ・公共交通に含まれる鉄道やタクシーのデータも、是非、提供いただきたい。

(2) 第3次公共交通計画目標達成状況の評価について《報告事項》

- ・事務局より資料説明

《質疑応答》

- ・収支率は大事な指標であると考えている。収入だけではなく、乗務員の人件費や燃料費など運行経費の変化があると変わってくると思うが、そのあたりは考慮されているのかお聞きしたい。

→i-バスは5年ごとの契約となっており、令和6年度までは運行経費が据え置きであり、収支率の改善は運賃収入の増加によるものと考えている。(事務局より回答)

- ・既に目標は達成しているが、中間的な目標の見直しなどは考えているのか、教えていただきたい。

→令和10年度までの5年間計画であり、そこまでは見直しは考えていない。次の計画で新しい目標値を設定したいと考える。(事務局より回答)

《意見・要望》

- ・目標値は令和4年度以上を設定しており、大きく利用が増えて達成しているとのことである。利用者が増えていない市町もある中で、素晴らしい。
- ・目標を見直すことも考えられるが、見直さない場合は、現在の評価のように前年度とコロナ前を比較するなど、多様な解釈をもって進めていけると良い。

- ・絶対値として目標に達しない場合については、計画の内容、政策を見直すことも必要である。目標・指標は、その目安として見て頂きたい。

（３）第３次公共交通計画令和６年度最終報告及び令和７年度計画推進について《報告事項》

- ① iーバス木曾川・北方コースの見直しについて
- ② iーバス尾西北コースの見直しについて
- ③光明寺線、丹陽線の延伸に向けての協議の状況について
- ⑤新たな移動手段導入に向けたルールづくり（素案）について

- ・事務局より資料説明
- ・光明寺線については、バス通行ができる環境整備が必要な箇所があり、相当な労力が必要と考える。沿線の皆さまの要望を多々頂くが、安全の確保が重要であり、特に、木曾川駅周辺が厳しいと考える。丹陽線についても、アンダーパスなど通行に支障が出そうな道路事情は懸念事項である。また、複数自治体に隣接しており、そちらとの調整も必要となるため、慎重にかつスピード感を持って取り組む必要がある。（名鉄バスより追加説明）
- ・木曾川町連区では、ここまで住民懇談会を３回実施した。地域の公共交通の利便性を高め、地域の活性化を目指す。本腰入れて実施するには、公共交通協議会の設立が必要と考えた。来月、初めての総会を開催する。地域としては利便性を高めていく提案をしていきたい。（副会長より追加説明）

《質疑応答》

- ・尾西北コースについては、一部区間を無くす提案なのか。地元の方のご意見はお聞きしているのか。地元が理解しているのであれば、問題ないがどうか。

→懇談会は、沿線の連区長、地域づくり協議会長に参加いただき、奥町、三条、開明、小信中島より参加いただいた。この区間は片回りとなっており、利用が大変少ないため、利用状況に鑑み、廃止の案を提案させていただいた。沿線は住宅地から外れており人口も少なく、利用者も少ないため、無くすことについて、地元からは特に反対のご意見はない。(事務局より回答)

・現在のルートであれば、あまり使えない路線である。西病院へ直接行けるようになる、エコハウスから先に行けるなど、更なる改善も考えられる。そのため、現地調査も踏まえ、検討しているところである。現時点では、決まっていないことは了承いただきたい。(会長より追加説明)

- ・尾西北コースについて、バスを西病院行きにして協賛金を募れないかとの市民意見がある。千秋病院から協賛していただいているが、このような協賛金について市でも議論しているのかお聞きしたい。

→千秋町コースについて、千秋病院からも協賛いただき、頑張ってもらっているが、協賛金の仕組みがある。一方、他のコースについては、協賛金の仕組みづくりができていないため、今後仕組みづくりも含めて取り組みたい。

(事務局より回答)

- ・木曾川でも協議会を立ち上げ予定であり、そのような機能も持たせて進めていきたいと考えている。(会長より追加説明)

《意見・要望》

- ・木曾川はある程度固まってきているが、新しく乗入するエリアについては、きちんとモニタリングしていくことが重要である。結果的に、そこに入ることによって所要時間が増加する方もいる。「乗る乗る詐欺」とならないよう、実際に乗っていただくよう、地域と一緒に取り組む必要がある。

- ・北方については、議論が遅れている状況である。i-バスミニの現状の運行では、使い勝手が悪く利用者が少ないため、このまま導入しても利便性の改善にはつながらない。一方、地域で協議会の設立が難しいとの意見もある。
- ・新しい乗り物の導入や既存公共交通の改善について、地域・地元でどの程度関わっていただけるか、真剣に考えている地域を優先して支援できるような仕組みとなることが重要である。
- ・岐阜市では、2005年からこのようなルールを策定し、20か所で取り組んでいる。岡崎市、豊田市など中核市でも取り組んでいる。市役所直轄では難しいため、地域が主体性を持って地域で取組んでいただくことが大事である。

④一宮市版 MaaS サイト「イッテミーヤ」について

- ・事務局より資料説明

《意見・要望》

- ・「イッテミーヤ」のような取組は、全国的にもほとんど上手くいっていない。
- ・チケットのデジタル化は本来の MaaS の概念とは全く異なる取組である。一宮市内で生活が完結する方は少なく、そうすると広域で活用できる CentX 自体の効果の方が高い。また、市内で生活している方は高齢者が多いと思うが、そのような方はデジタルに弱い方が多いなどの問題も影響がある。
- ・これまでの知見を踏まえ改善した点が見受けられない。

→ご指摘いただいた通り、このような利用結果となっており、単品のチケット販売だけではなく、しっかり考えていく必要がある。国庫補助を活用しながら、モードを乗り継いだり、回数多く利用頂いたりした場合は後で割引くなどの機能も開発を進めている。この機能を活用しながら、市の中での周遊

も促進できるよう進めていけると良い。アクセスは一定数あるものの販売数は低迷しており、評価が難しいところである。他のエリアでも同様の実績となっており、いかに周知をしていくかが重要である。市とも連携して周知を進めたい。短期的には効果が出ないが、継続して取り組みたい。

- MaaSは観光地で取り組んでいるところが多いが、来訪者へのアプリダウンロード等にハードルがあるため、本当はリピーターに利用してもらうことが良い。観光は基本的に使う頻度が低いため、対象としては魅力が低い。一方、一宮市では居住者等に利用してもらえるため、対象としては良い。しかし、きっかけが重要であり、車アクセスができないイベントなどと連携して進める必要がある。まず、アプリを認知していただき、少しずつ活用いただく流れが必要である。
- 現在の取組は、供給側の視点で考えているのではないか。公共交通を利用する可能性がある市民・利用者側の視点で提案していく必要がある。これが面白いと思える住民の方にブレインストーミングしてもらい、名鉄に実装していただければと考える。

→ご指摘通り、供給者目線にならないように、常に心掛けている。利用者数やアンケート回答者数の絶対数が少ない状況にあり、継続して取り組みたい。

- この会の部会として開催しても良いのではないか。例えば、学生の参加も有効である。また、高齢者の利用も一緒に進めたい。協力できる方がいれば、是非お願いしたい。

(4) 小中学生 i-バス無料ホリデーの結果について《報告事項》

- 事務局より資料説明
- 一宮コース（市民病院行）では中学生 263 名、小学生 110 名の利用があった。（事務局より追加説明）

《質疑応答》

- 全体の利用は増加しているが、千秋は増えたなど、地域性はあるか。
→昨年度との比較となるが、一宮、尾西北、木曾川・北方、千秋町コースは利用が増加しており、尾西南、萩原町・大和町コースは減少している。利用者数は、一宮コースが最も多く、次いで千秋町コースが多い。(事務局より回答)
- 春休みにした理由はあるのか。夏休みではない理由はあるのか。
→夏休みは、エコハウスなどのプールに行きたいと要望もあるが、閑散期に乗っていただきたい思いもあり、春休みで実施している。(事務局より回答)

《意見・要望》

- 1日60人程度の利用であり、あまり多くはない。このような取組とイッテミーヤと連携する、他のイベントと連携するなどが考えられる。
- ある市では、大型商業施設までの路線が、高校生まで無料である。バスに乗り慣れることが目的であり、他の路線への効果も見込んでいる。どうしたら、バスを日常的に利用してもらえるか、継続的に研究していく必要がある。
- 長女が中学生であり、昨年度も学校からこの案内を頂いてきた。これまで、バスの利用機会がなかったため、図書館へ行ってみようかと調べていた。中学生であれば子ども自身で興味がわくのではないかと。ただし小学生の場合は、一人でバスに乘せることが不安である。どうしたら安全にバスが利用できるか、アプリを活用するなど検討していけると良い。
→小学生の保護者向けに、安全に利用いただけるよう案内もお渡しできると良い。

- ・次の春休みまで期間もあるため、保護者等のご意見も伺いながら、検討いただきたい。

(5) 福祉車両による買い物支援の実施状況について《報告事項》

- ・事務局より資料説明
- ・買い物支援について、生活支援委員で把握しており、1か月に1回報告いただいている。市内に7つある地域包括支援センターで地域の生活を議論する中で、地域に密着した団体が地域とともに課題解決するために取り組んでいる。(高年福祉課より追加説明)

《質疑応答》

- ・福祉分野においては、複数ある課題の中での1つの取組である。新しい取組が出てきていないのか。
→同じような議論の中で、移動販売車を試験的に導入したがお客様が誰も来なかったという結果もきいた。やはり、直接店舗へ買い物に行ける方が良いのではないかと考えている。(高年福祉課より回答)

《意見・要望》

- ・このような仕組みがあるため、皆さんの地域も取り組みませんかと案内・紹介できると良いのではないかと。高齢者の外出支援にもなる。

(6) 新保健所開所に伴う i-バス停留所の移設及び名称の変更について《協議事項》

- ・事務局より資料説明

《意見・要望》

- ・ 千秋町コースについて、一宮駅行きの停留所は移動なしであり、交差点を渡って保健所へアクセスするのが一番良いとのことである。
- ・ 一宮コースについて、共通の停留所にすると乗り間違いが生じるとの懸念もあるが、両方の停留所に停車しても良いのではないか。
- ・ 片方ずつに停車する場合、通過することになるため、勘違いする方がいる。そのため、それぞれの停留所に、他の停留所を案内していただけると良い。

《議決》

- ・ 移設・名称の変更について、賛成頂ける方は挙手をお願いしたい。(一同：挙手にて了承)

(7) 令和8年度地域公共交通計画認定申請書の提出について《協議事項》

- ・ 事務局より資料説明

《意見・要望》

- ・ 名鉄バスの一宮・イオン木曾川線について、昨年度までは一宮市の計画に位置付けていたが、今年度からは県の計画に位置付けており、県の会議でも議決し、手続きは県で進める予定である。ただし、一宮市内で運行している路線であり、引き続き、一宮市でも議論を継続していただきたい。
- ・ 一宮・イオン木曾川線については、国と条件等は異なるが、令和7年度からは県からも補助がある。

《議決》

- ・申請書の提出について、賛成頂ける方は挙手をお願いしたい。(一同：挙手にて了承)

3. その他

- ・次の会議はいつごろの予定か。
→1月には必ず開催したいと考えているが、その前に議論いただきたい内容が出てきた場合は、夏か秋ごろにも開催したい。

4. 閉会